

令和2年度 当別町子ども発達支援センター 自己評価の結果について

【評価対象事業】

- ・放課後等デイサービス

【調査機関】

- ・令和2年12月7日～令和3年1月15日

【調査対象者】

- ・当別町子ども発達支援センター指導員

【回答率】

- ・配布数：7名 回収数7 回収率100%
- ・回答を分析し、次年度の改善に反映してまいります。

【評価】

- ・業務改善、適切な支援の提供、関係機関や保護者との連携、非常時の対応は、概ね適切に行っているという評価です。
- ・職員の資質、専門性、保護者支援については個人差がみられ、コロナウイルス感染症の影響で研修棟の場が減りましたが、個々の自己研鑽、自己学習にも差があるのではという評価です。
- ・長期休業中には、指導時間の配慮はありましたが、コロナウイルス感染症の影響により、社会見学は中止となりました。
- ・コロナウイルス感染症の影響により、学校が休校という状況の中、通園は停止しませんでした。職員や利用者からの感染症の発生はありませんでした。体調管理、施設内の消毒、利用者への協力要請等の対応については概ね良好だったという評価です。

【課題】

- ・今後も、利用者に安心して通園していただけるよう、コロナウイルス感染症防止対策の徹底。
- ・コロナウイルス感染症の影響で中止になった活動等の今後の取り組み方の検討。
- ・次年度、コロナウイルス感染症の影響により、研修や学習の場が減った場合のセンター内研修や自己研鑽の取り組み方の検討。

【今後に向けて】

- ・今後も利用児童、保護者の方一人ひとりに合った、適切な支援の提供や資質向上のために、次年度は、麦の子会の臨床発達心理士による地域支援の受講、北海道立子ども総合医療・療育センターの医師や専門職による専門的な技術支援受講や療育センターでの現場研修等を9回、北海道通園連絡協議会主催の発達障害についての

研修を2回、感染症や虐待、相談支援専門員研修等各1回以上、随時研修会、学習会の案内があれば、参加します。また、対象児童（次年度は10名程度）の医師や他の放課後等デイサービス事業所などの関係機関と連携します。直接連携できない場合は、文書、電話等を利用し連携に努めます。

- 保護者、児童の支援については、常に職員全員で問題意識を持ち、ニーズを把握しながら、ケース会議を増やし、更に「チーム」で対応する意識を高めていくよう努めます。
- 長期休暇中の課題の設定では、今年度実施できなかった社会見学については、実施の方向で進める予定ですが、コロナウイルス感染症の状況によっては、内容や方法の検討をします。
- 次年度も指導員の健康管理への意識向上、センター施設の消毒等コロナウイルス感染症やその他の感染症予防の徹底に努めます。